



# 北島三郎さん

インタビュー

—芸道50年おめでとうございます。現在の心境は？

北島 人の一生が丸ごと入ってしまうほど長い年月を、自分の夢の実現のために歩むことができた幸運に心から感謝します。今後もこの道をひたすら歩み続けていこうと思



います。

—前浜で生まれ、生家は漁業を営んでいました。思い出はたくさんあると思いますが、

遠くにおいても「ふるさと」が僕をいつも励ましてくれました。

北島 はい、数限りなくあります。中でも忘れられないのが、イカが納屋の中でホタルのように光り輝く光景です。おやじが沖でとってきたイカをおふくろが浜で裂き天日に干し、夕方になって納屋の中に運び込むとイカたちが夜光塗料を塗ったようにいっせいに光り出す夢のような光景は、今もまぶたに焼き付いています。

—歌手になりたくて故郷を出た時の心境は？

北島 知内を出て行く時、おふくろが家の前で手を振り、おやじが連絡船の棧橋まで見送ってくれました。そのおやじの目に光るものを認めたときは、本当に胸がつまる思いでした。そのような思いで津軽海峡を渡って到着した東京

の風は、北海道の冬の風よりも冷たく、体の芯から凍えました。世間の冷たさに打ちめされたときは、故郷を思い出して泣きました。そうしたことを繰り返しながら長い時間を耐え、出会いに恵まれ、ようやく北島三郎になることができました。

—大歌手になってもほぼ毎年、故郷に戻ってサマーカーニバルに出演し続けました。

北島 私は知内におふくろやおやじを残して東京へ出た人間です。そのおふくろとおやじを知内は守ってくれました。だから、知内には必ず恩返しをしなければならないと思いつけてきました。その恩返しのひとつがサマーカーニバルへの出演。おかげさまで近隣のまちからも大勢の人が

来る、魅力あるお祭りに成長したことを誇りに思っています。

—故郷に戻るとどのような気持ちになりますか？

北島 安らかになり、眠たくなります(笑)。神様が「大変だったろう、ゆっくり眠りなさい」と言っているような気がします。山の景色、川の流れるは本当に美しく、そのような故郷に恥じない立派な歌手になることが私の夢でしたが、どうにか近づけた気がします。今後の目標は、故郷に恥じない立派な歌手であり続けること。そして子どもたちが夢を持って暮らしている故郷の実現に微力ながら力を注ぎたい、ということです。

## 知内町のイベント紹介

まちが燃える「サマーカーニバルin知内」など盛り沢山

5月

さくらまつり青空市



毎年ゴールデンウィーク期間中の2日間、道の駅しりうちで開催されます。農産物や海産物など町内の特産品が特設店舗にずらりと並び、獲れたての食材を炭火で焼くコーナーなども設置されます。誰もが楽しめるイベントとして多くの人が訪れます。

8月

サマーカーニバルin知内 しりうち大漁まつり



毎年8月14日、知内川河川敷特設会場で「サマーカーニバルin知内」が開催されます。歌謡ショーやフィナーレの花火まで盛大に盛り上がり、8月下旬には涌元漁港で海の幸に舌つづみが打てる「しりうち大漁まつり」が実施されます。

 <b>春</b> Spring	 <b>秋</b> Autumn
 <b>夏</b> Summer	 <b>冬</b> Winter

毎年10月第4日曜日、町民センター駐車場を特設会場に開催されます。町内で獲れた旬の海産物や農産物が特設店舗で販売されるほか、歌謡ショー、振る舞い餅、大抽選会など、楽しい催し物が実施されます。

10月

産業まつり



2月

カキVSニラまつり



函館や札幌などからも観光客が訪れる人気イベント。スポーツセンター等を会場に「知内かき」と「知内ニラ・北の華」の販売を始め、焼きガキコーナー、創作料理、ニラしゃぶ試食など企画も盛り沢山です。2月下旬に開催されます。